

マリンライフ

[Vol. 281]



カタクチイワシ

学名	<i>Engraulis japonicus</i>
全長	15cm (シラスは全長3cmほど)
寿命	2~4歳
成熟年齢	0.5~1歳
産卵期	厳冬期をのぞくほぼ周年
食性	動物プランクトン
捕食者	スズキ、サバ、タチウオなどの魚食性魚類
地方名	コイワシ (瀬戸内海)

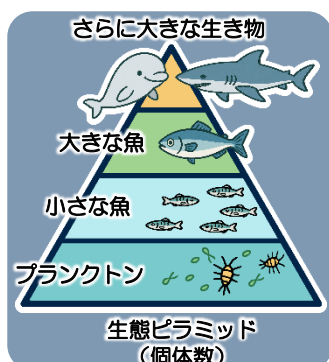
シラス(コイワシ)漁最盛期！

江田島近海では、6月から12月にかけてシラスやコイワシの漁が盛んに行われています。船びき網や小型まき網で漁獲されるシラスは、生食や釜揚げ、ちりめんじゃこ、コイワシは煮干しなどとして親しまれ、日常の食卓に欠かせない食材です。

先日、鹿川の白地水産株式会社のご協力で、シラス(コイワシ)漁と加工場の見学をさせていただきました(詳しくは3ページ)。今回は、漁からわかる里海的环境について紹介します。

なぜこんなに獲れるの？

カタクチイワシは、広島県の魚類の中で最大の漁獲量を誇り、県内漁獲量の約70%を占めています。そして、広島県の中で最も漁獲量が多いのが“江田島市”なのです。江田島周辺でたくさん獲れる理由として、一つ目は、この海域が栄養豊かなことです。栄養が多いと植物プランクトンが増え、それを食べる動物プランクトンも増えます。カタクチイワシはこうしたプランクトンを食べるため、たくさん育つことができます。二つ目が、カタクチイワシは海の生態ピラミッド*で下層にいる生き物だということです。下層の生き物は上層の生き物の餌となるため、数が多く、全体の量も多くなる傾向があります。



栄養豊かな海と、生態ピラミッドの仕組みなどが、たくさん獲れる理由なのです。

※生態ピラミッドとは、個体数、生物量、生産力を栄養段階ごとに帯状に表し積み重ねたものです。

漁獲物からわかる里海の多様性

見学させていただいた日の漁では、カタクチイワシに加えて、マダイ、マアジ、マサバといった食卓でもおなじみの魚や、



タチウオ、カマスのような肉食魚、さらにホウボウやハモ、エソなどの底生魚など、多様な種類が漁獲されていました。また、ヒイラギ、テンジクダイなどの小魚に加え、エビ、アオリイカ、コウイカといった甲殻類・頭足類も見られました。これらの生き物はそれぞれ異なる環境にすみ、異なる食べ物を食べながらも、同じ海の中で複雑に関わり合って暮らしています。こうした多様な生き物の存在こそが「生物多様性」であり、海的环境が健全である証でもあると言えます。

シラス(コイワシ)漁では、大小さまざまなサイズの生き物が混獲されます。混獲された生物は、すべて廃棄されるのではなく、一部は出荷され、別の商品として加工・利用されています。また、禁漁期間や休漁日などを設けることで、海の資源を獲りすぎないように管理が行われています。

自然を仕事にするってどんなこと？

さとうみ科学館で 職場体験！

8月20日から22日までの3日間、職場体験学習「キャリア・スタート・ウィーク」が行われました。

さとうみ科学館では、教育普及や調査研究など、日常の仕事の一部を中学生のみなさんに体験してもらいました。江田島中学校と大柿中学校の生徒9名の感想をご紹介します。



職場体験を振り返って

職場体験の内容

- ・講義
「地域の教育資源としての役割」
「江田島湾におけるカブトガニの現状」
- ・調査
カブトガニ生息状況調査・生物調査
- ・標本整理
カブトガニ脱皮殻クリーニング
- ・サイエンスキャンプ予備実験
- ・水槽メンテナンス
- ・展示物作成・整理
- ・図書整理
- ・広報 ニュースレター作成・発送準備



高先 颯太

今回の職場体験を通して、「さとうみ」について深く知ることができました。また、江田島市内でカブトガニが減っているという話を聞き、私たちが江田島の豊かな自然を守っていかないといけないと感じました。本当にありがとうございました。

中野 蒼介

珍しい体験をさせていただきありがとうございました。個人的には、アクアギャラリーの整備やシュノーケリングが楽しかったです。海の生物とは、普段関わらないけど、このさとうみ科学館での体験を通して多くの生物と関わることができました。この体験は一生忘れません。ありがとうございました。

川西 楓河

職場体験で普段自分があまり考えることのない「さとうみ」についてや「仕事」について学ぶことができました。の貴重な体験を活かせるように頑張ります。ありがとうございました。



石坂 桜瀬

今まで知らなかったことや、初めてやったことが沢山ありとても楽しかったです。生物に関わる職業が実際にどのような仕事をしているか体験でき、とてもいい経験でした。元々、生物が好きでこのような仕事に興味がありましたが今回の体験を通して、より自然への興味が深まりました。大変お世話になりました。ありがとうございました。



後 大我

職場体験をさせていただきありがとうございました。僕は、海の生き物に詳しくないけど、海の生き物に興味があったので選択しました。実際に体験してみてもすごく大変でした。でも、海に行ったらたくさん予備実験をしたり、シュノーケリングなどもできてすごく楽しかったです。短い三日間でしたが貴重な体験をありがとうございました。学んだことを、今後の生活に活かしていきます。

伊藤 愛紗

普段できないような体験をたくさんさせてもらってすごくおもしろかったです。江田島の自然についても話をきいて、これから先どのようにしたら自然が保てるかなど考えることができました。とても良い経験になってよかったです。ありがとうございました。



畑本 聖矢

これまでやったことのない体験をさせてもらって楽しかったし、疲れました。力仕事が大変でした。江田島の海の事が分かり、さとうみ科学館はどんなところかが分かりました。

岩本 翔真

今回の職場体験を通して市周辺にいる海の生き物について知り、たくさん自然と触れ合うことができました。たくさんの貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。



礒亀 優一

さとうみ科学館で職場体験させてもらいありがとうございました。今回の職場体験で江田島のことやさとうみ、カブトガニ、魚など色々なことを知りました。職場体験を実際に体験してみてもすごく楽しくて大変でした。この三日間で学んだことをこれからの生活にも生かしていきたいです。

海と地域と学校をつなぐ、 里海コーディネーター始動！

江田島の魅力である「里海」を通じて人づくりとまちづくりを進めるために、里海コーディネーターとして今年4月に着任した向井さんの活動レポートです。

向井さんの取り組みのひとつに、江田島の豊かな海を活かした「さとうみ学習」の開発と推進があります。1学期の間、地域や学校を訪ね、先生方や地域のみなさんと顔を合わせながら、つながりを広げてきました。学校では「さとうみ学習」の取材をしたり、授業について先生方と一緒に考えたりしながら、地域の自然や人を活かした学びとなるようサポートしてきました。そして夏休み期間中に、自身初の取り組みとなる教員研修とワークショップのコーディネートを行いました。

SATOUMI GAKUSYU
REPORT

8月28日

江田島の海を教材に！先生対象の研修を開催しました

市内の小中学校の先生方を対象に「さとうみ学習研修」を開催しました。16名にご参加いただきました。研修は三部構成で、【第一部】江田島の海の産業講義、【第二部】白地水産株式会社（能美町鹿川）でのイワシ漁体験&工場見学、【第三部】さとうみ学習の授業づくりワークショップと盛りだくさんの内容でした。丸一日は少しハードかな…と思いつつも、時間が経つのはあっという間でした。後日、参加された先生から「学びがたくさんありました！参加してよかったです！」とお声をいただきとても嬉しく思いました！

また、普段は何気なく見ている景色も、講義や体験を通じて「こどもたちの教材になるおもしろさ」を発見できたり、先生方がこどもたちに寄り添った授業づくりの発想やアイデアを次々に出されていたのが、とても印象的でした。これからも江田島の魅力を先生方に知っていただく機会をたくさん作りながら、一緒に「さとうみ学習」を深めていきたいと思います。



こどもたちが描く江田島の海 えたじま海の絵ワークショップ開催！

8月30日



8月30日、さとうみ科学館で「えたじま海の絵ワークショップ」を開催しました。講師はコピーライターの原さんとデザイナーの川島さんで、デザインの楽しさを教えていただきました。市内のこどもたちが江田島の海をテーマに「紙版画」に挑戦し、表現する喜びとデザインの奥深さを体感しました。

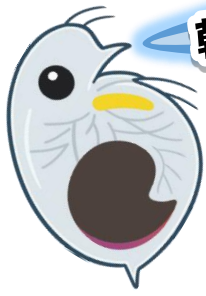
最初は「紙版画ってなに？」と不思議そうにしていた子どもたちも、先生の見本を見て「すごい！」と歓声をあげ、お気に入りの海の生き物や景色を写真から選んでじっくり観察しました。版画のパーツを描いて組み合わせ、色を重ねることで、世界に一つだけの作品を完成させました。絵の具のかすれや紙の貼りつきといった“偶然”も、新しいデザインとして楽しむ姿が印象的でした。完成した作品は今後、海に関する教材の挿絵として活用される予定です。仕上がりが楽しみです！



着任して初めてのビッグイベントで当日まで不安でしたが、参加者の方々が楽しんでいる姿を見て安心しました！私も江田島の里海の魅力を発見できました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました！

（向井）

◆ 第207回自然観察会 ◆



乾燥ウミホタルを使って

生物発光実験

夜の海で光る小さな生き物「ウミホタル」。
今回は、乾燥させたウミホタルを使って、生物発光のふしぎを体験する実験を行います。実験室で色んな条件を試しながら最も明るくなる瞬間を見つけてみましょう！自分の手の中で光が広がる瞬間は感動まちがいなし！

日 時：令和7年10月18日（土）

時 間：15:00～16:30

開催場所：さとうみ科学館（講義室&実験室）

定 員：30名程度

申 込：LINE 申込フォームまたは
事務局へお申し込み下さい。

申込期限：10月16日（木）



申込はこちら

内容

お話（30分）
発光生物について
発光メカニズムについて

実験（60分）

潮見表 10月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
時分	9:19	0:30	1:12	1:45	2:18	2:52	3:26	4:02	4:38	5:14	5:53	6:34	7:22	8:33	10:25	
cm	137	200	170	138	105	72	43	21	7	5	15	37	68	100	118	
時分		11:36	12:52	13:43	14:26	15:06	15:44	16:23	17:01	17:40	18:22	19:11	20:22	22:40		
cm		131	104	76	54	42	42	54	77	107	140	173	199	201		
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
時分	0:15	1:06	1:44	2:17	2:48	3:16	3:44	4:11	4:37	5:05	5:34	6:05	6:42	7:32	8:51	10:40
cm	175	143	114	89	68	53	42	36	35	39	48	63	81	102	120	122
時分	11:58	13:02	13:50	14:28	15:03	15:34	16:04	16:33	17:02	17:33	18:06	18:46	19:38	21:09	23:10	
cm	113	100	88	81	81	86	95	107	120	135	152	169	186	194	179	

cmの数字が小さいほど、よく潮が引きます。

令和7年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜きの文字）が調査に適しています。

事務局だより

●オータムフェスタ江田島2025

10月25日（土）、海上自衛隊第1術科学校で開催されるオータムフェスタに、さとうみ科学館が、「さとうみポケットミュージアム」を出品します。ウニやヒトデ、カニ、ヤドカリなど磯の人気者たちと出会い、触って体験できるチャンス！こどもから大人まで、里海を楽しく学べる機会です。去年は雨で中止になってしまいましたが、今年は青空の下で開催できることを願いつつ、みなさんのお越しをお待ちしています！

●ニュースレター（カラー版）

右のQRコードよりさとうみ科学館のHPにアクセスいただくとニュースレターをカラーでご覧になれます。最新号の他に過去6か月分のニュースレターを掲載しています。



●休日開館日（10月）のお知らせ

10月の休日開館日は、11日、18日、25日です。開館時間は9:30～17:00（入館は16:30まで）です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館
Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL: (0823) 57-2613

FAX: (0823) 40-3100

メール: satoumimail@yahoo.co.jp

HP: 『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館 長：西原 直久
専 門 員：平山 良太
主 任：鎌崎 賢三
運営指導員：下中 茂樹
運営指導員：峯 哲士
支 援 員：木村 さつき
野コーディネーター：向井 綾香



（友の会会員）

シニア 182名

ジュニア 142名

◆あとがき◆白地水産さんの工場見学では、シラスより少し大きく成長したコイワシの加工を中心に行っていました。広い工場の中には大型の機械がぎっしり並び、加工ラインの様子はとても見応えがありました。できたての煮干しは、とても美味しかったです。（鎌崎）